

海外留学帰国報告書

氏 名 : 松田紗季

留学期間 : 2015年9月~2015年12月

私が海外長期留学を決めた理由は、大きく分けて3つあります。1つ目は自分の英語能力を伸ばすことです。2つ目は日本に居たら履修しないような科目を履修することで知識をより増やしその幅を広げようということです。3つ目は全く違う文化を持つ場所で生活をし、全く違う文化を持つ人たちと少しでも多く交流することで自分が今まで知らなかった世界を知り、そして刺激を受けることです。派遣が正式に決定した後は、学校からの指示に従って事前準備を進めました。主に書類の作成と提出でしたが、1つ1つの書類の量が多いというよりも書類の種類が非常に多く、また提出期限もその種類によって様々だったので、どの書類がいつまでかを整理することがたいへんだった覚えがあります。基本的な申請書類から助成金の申請書類など自分で自分の希望に応じて出さなければならないものなどもあったので、関係するwebページを何度も見返し、自分がどの書類を出さなければならないのかを判断しなければなりませんでした。特にビザの書類は書き込む内容が多く、またチェックが厳しいと聞いていたので、記載し忘れがないか非常に気を付けました。保険は大学に指定されたものに入ればよかったので自分で探す手間がなかった点で楽でした。

協定校との手続きは事前に事務室を通じて送ったり、日本で作成し印刷したものを持って行ってオリエンテーション時に提出したりしました。滞在先にはプリンターがなかったので、後から間違いに気づいても修正できないという緊張感がありました。日本だったら二重線を引いて書き直すなど方法がありますが、それが向こうでも大丈夫なのかと不安に思っていたからです。特に最初は、生活自体がこれまでとは全く違うことから様々なことに不安を抱えている中で諸手続きがあったので、そういった点から余計に緊張感を感じていました。

当初の私の希望は、一人暮らしでした。以前短期の語学留学をしたとき寮に滞在したのですが、その時たまたまルームメイトが途中で変わったことで気が合い楽しく過ごせた生活と全く気が合わず居心地の悪い生活との両方を経験しました。今回は期間も長く専門科目を学び実際の学生生活を送らなければならないことからたださえ多くのストレスを感じるのに、その上気が合うかどうかや生活感の違いなど学校以外のストレスに振り回されたくなかったので、一人暮らしを望んでいました。ところがこちらに住居の案内が届いて協定校とやり取りを始めた時には、既に一人暮らし用の住居は埋まってしまっているからルームシェアしかないと言われてしまいました。選択肢がないのでやむを得ず承諾し住居を決定したものの、自分が思っていたものとは違う流れになってしまい不安でした。実際は素晴らしいルームメイト二人との生活で、とても楽しい生活を送ることができました。よく一緒に映画を見ながらガールズトークで盛り上がりたり、その日あった出来事を話したり、困っていることがあると相談したり、時には真面目な話をして意見を交わしあったり。とても仲良くしてもらえて、自分はこんな素敵なルームメイトを持ってとても幸せだなと今でも思います。私は今回が初めての親元を離れての生活だったので、帰ってきた時や夜静まり返って怖く感じることもないし他愛ない話ができる人がいつもいることに安心できました。なので、かえって一人暮らしより良かったなと思います。

本当に友達ができるのかといった不安ももちろんありました。なかなかうまくいかなかった部分もありつつも、最終的には仲の良い友達ができました。学期途中で長い連休があったのですが、みんなで一緒に旅行に行ったり、音楽聴きながらこの曲が好きだとかなんてことない、くだらない、他愛ない話から学校の話からそれぞれの国の話をしたり、たくさんの思い出があります。お互いの国の話も、日常生活などのちょっとした違いの話から宗教など真面目な話までたくさんのことを話しました。たくさんの素敵な友達と出会えたことにとても感謝しています。

レンヌ商科大学では授業は英語で行われ、ほぼすべての授業でグループワークがあります。授業形態は講義形式ですが、グループによるプレゼンテーションが行われたりグループレポートを提出したりと何かしらのグループプロジェクトがありました。グループで私は積極的に自分の意見を話すことをとても意識しました。意識しなければただ一方的に聞いているだけになってしまい、せつかくの自分の成長の場を逃してしまうと思ったからです。また、ただ黙っていることは相手に良い印象を与えないとも思っていました。意見の交換やグループワークを通して友達ができただけなど良い点もあった反面、苦勞ももちろんありました。たまたまですが最初の週にいきなり次の週までにプレゼンテーションを準備することになってしまったり、なかなか参加してくれない人がいたり…。盛り込む内容を勘違いしていて最後の最後まで調整したこともありました。また、人前で英語でプレゼンテーションを行うことにももちろん慣れていくわけではなかったので、本番ではいつも以上に緊張しました。

私の場合、帰国の準備はとても慌ただしかったです。大きなグループプロジェクトと期末テストが立て続けにあり、また期末テストが終了してすぐに最後の旅行に出発したので、それ以前に準備はできませんでした。旅行から帰った後もレンヌの街を出るまでに1日しかなかったので、その日はとても落ち着きませんでした。家を出るときには家の中を掃除してからでなければならなかったことや洗濯などの家事的なこともあったこと、そして何より最後の最後に風邪をひいてしまったので、休み休みの作業になってしまいました。あっという間に1日が経ち、あっという間に街をでた感じでした。1学期間過ごした家を出るときは思っていた以上に感慨深い気持ちになりました。帰国書類に関しては、帰国が年末だったので帰国してから作成して年明けに出せばいいと思い、作成自体はしていませんでしたが、何を提出しなければならないのか、期限はいつかといったことは何度も確認していました。協定校に提出するものは特になかったと思います。なので、学校とはテスト最終日にお別れでした。実感がなかったです。

この1学期間は私にとってとても貴重な体験となりました。思いもよらなかったこともたくさんあったし、大変なこともたくさんありました。けれど帰ってきて「行ってよかったな」と心から思える留学になりました。この経験をどうやって活かすことができるか考えていますが、英語能力に限らず自然と何かの形になって表れることでしょう。もしも留学を考えている人がいるなら、私はその背中を押したいです。日本に居るとどうしても「留学」ってものすごく大きくてとても手に負えないように見えてしまいがちかもしれませんが、実際それは自分次第だと思います。私も出国直前はものすごく不安でどうしようもなかったのですが、生活が始まった後は「ここまで来たらやるしかないし、せつかくのチャンスなんだから後悔だけはしたくない」という思いで日々を過ごしているうちにあっという間に時間が過ぎていきました。家族など周囲の支えが必要ですが、もしも興味を持っていて、かつそのチャンスがあるなら、ぜひそのチャンスに飛び込んでほしいと思います。そこで得るもの、感じることは人それぞれだと思いますが、決してそれは無駄にならず、価値のあるものになると思います。